

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス とびらえ		
○保護者評価実施期間	R7年 11月 10日		～ R7年 11月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	R7年 11月 10日		～ R7年 11月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 12月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	100㎡の広さを活かした運動支援や集団活動、ストレスなく自由支援で子ども達がのびのび過ごすことができる空間。	「動」と「静」や「集団活動」と「自由支援」など広さを活かした部屋の使い方をしている。	運動支援で用いる支援器具の充実を図りたい。
2	月案を作成し保護者や子ども達に支援内容を開示し安心して通所してもらっている。	日々の訓練の結果を地域で発揮してもらうために、土曜日に課外活動として体験や見学などの支援を積極的に取り入れている。	月案を作成するスタッフが固定になっているので、スタッフ全員が作成できるように分担していきたい。
3	子ども達の様子について日々、保護者の方々と共有を行っている。	保護者とは療育システムの媒体を使用し常時連絡を可能にしている。また、その日の様子を動画や写真で保護者に送り施設での様子を見てもらえるようにしている。	Instagramやブログなどを利用し保護者の方や第三者の方にももう少し情報が取れる様に更新頻度を増やしたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子供達と交流する機会が少ないこと。	施設利用のお子様と季節のイベントや課外活動に力を入れているため。	地域の放課後等デイサービスなどともコミュニケーションを取り、交流の輪を広げていきたい。
2	外出支援や課外活動はたくさん行ってきたが、公共交通機関を使用した支援が少なかったように思う。	車での移動を中心に考えて計画を立ててしまっていたため。	日々の活動の中で電車の乗り方、バスの乗り方をしっかり学べるようなプログラムを作成し実行する。
3	事業所内での様々な研修体制を整備すること。	研修を受けに行った後日、他の従業員にフィードバックする時間が必ず設けられていなかったこと。	研修を受けていない職員に対してフィードバックができるように社内研修を定期的に行う。